



果樹特報

No.5

平成 29 年 5 月 26 日
J A 中野市営農センター
J A 中野市りんご・もも部会

現状、黒星病の果実感染はありませんが、一部で葉病斑が確認されました。6 月上旬まで果実感染が続きますので、引き続き一定の間隔で薬剤散布を進めてください。本年の結実も確定しましたが、地域や品種間で結実程度に差があります。結実量をよく確認して予備摘果作業を進めてください。また、5 月の降水量はここまで平年の 7 割弱と少なく今後の肥大不良が心配されます。定期的な灌水を実施してください。

りんご

6 月上旬の薬剤散布（前回より 15 日後）

◆ 散布日：6 月 日

◆ 散布量： リットル

散布時期： 6 月 5 日～10 日

散布薬剤：	水	1 0 0 リットル	
	展着剤	1 0 ml	
	アントラコール顆粒水和剤	2 0 0 g	（45 日前、4 回）
⑧	ダーズバン D F	3 3 g	（45 日前、1 回） * 注意事項①参照
	スイカル	1 0 0 g	（カルシウム剤）

対象病害虫：黒星病・黒点病・斑点落葉病・褐斑病・炭疽病

シンクイムシ類・ハマキムシ類・クワコナカイガラムシ・リンゴワタムシ

10 アール当り散布量： 600 リットル

【注意事項】 *必ずお読みください。

➡ カイガラムシ類対策

ナシマルカイガラ等の発生アプロードフロアブル 1000 倍（30 日前、2 回）を加用する。

➡ 枝腐らん病対策

腐らん病予防（健全部への感染侵入阻止）のため、トップジン M 水和剤 1000 倍（前日、6 回）を加用する。

- ① ダーズバン D F は劇物登録薬剤です。購入の際は印鑑をお持ちください。
- ② シンクイムシ類・ハマキムシ類の多い地帯はコンフューザー R (100 本／10a) を 6 月初旬に設置する。
- ③ カルシウム剤は、ビターピット・果実軟化防止や果実からの油上がり予防、果実の日持ち性向上、新梢の徒長抑制などに効果がある。また、スイカルに代えて、ストピットⅡの 500 倍を使用してもよい。ストピットⅡは、カルシウム成分の他に有機皮膜補助剤が混合されており、カルシウム補給と併せて幼果期の果面保護効果がある。
- ④ 6 月末まではサビの発生しやすい時期なので高温時の散布は避けてください。
- ⑤ 不明な点は、園芸課担当までお問い合わせください。（営農センター TEL 23-3933 まで）

◆ 次回（6 月中旬）薬剤散布予定：6/20～25

梅雨前半の褐斑病・炭そ病やシンクイムシ類・ハマキムシ類対象の薬剤散布です。

◆ りんご栽培管理情報は次頁をご覧ください。

◆ 仕上げ摘果で残す果実

- ① 花そう葉が多い果実（光合成が活発となる）
- ② 果梗が長く太い果実（落果しにくい、傷がつきにくい）
- ③ 縦長で肩がはっているもの（大玉になる素質ある）
- ④ 果台が1～2 cmの果実（ふじの場合） ＊右図参照
- ⑤ 果台枝が15cm以下の果実（ふじの場合） ＊右図参照
- ⑥ 着果位置が良好な果実（収穫前の日当たりが良い果実）



◆ りんご 5月に目立った病害・生理障害

① 黒星病（葉病斑）



昨年多発した害黒星病。

5月中旬から一部で薄茶色上の小斑点が確認されています。感染は6月上旬まで続くので引き続き防除を徹底する。本年の黒星病初期飛散は 4/26～27 頃と推定されます。左写真は葉の表面に薄茶色の隆起し小さな斑点が発生したもの。葉や軸部への感染が多い場合は今後果実に感染する可能性があるので注意が必要。

② うどんこ病（葉・果実）



4～5 月高温乾燥条件下で発生が多いうどんこ病。本年は品種を問わず多発傾向。被害部は、葉や果実が白い粉に覆われるのが特徴。被害葉等を見つけ次第、早めに除去する。放置しておくとな次年度の感染源になるので注意する。尚

越冬病源は発芽が10日位遅れるので、春先の早い時期に容易に見つけることができる。

③ 腐らん病



大敵腐らん病は本年も早期多発傾向。市内全域で被害程度も大きい状況。近年は極細い枝にも発生が目立つ。（左写真）

腐らん病は、他の病害と違い、気温が低くても雨等により感染が広がる特異性を持つ。最大の感染期は梅雨であるので、それまでに病斑部の削り取りや抑制処理を進める。

④ ふじの果台が異常に長いもの（青玉・光玉除去対策）



例年散見されるふじの果台が異常に長いもの。（理想は2 cm以内で止まること）

秋季の高温により二次伸長芽に多いのが特徴。尚、この部分に結実した果実は、当初は大玉であるが、後に青玉・光玉になる可能性が高い。仕上げ摘果までには除去したい。詳しくは6月中旬の青空教室で説明します。